

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 7 NO. 3

(通巻 27号)

昭和55年9月8日発行

編集・発行人 高橋 在久

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎ 0472-42-8311 (代表)



竹久夢二「江戸呉服橋之図」

甘くやるせない美の世界

—抒情の旅路—

竹久夢二展

竹久夢二の時代、すなわち明治末期から昭和初期にかけての時代は、ある意味では日本の青春時代にも例えられる一時期であった。そこには、未来に向けて息づく希望がほのかに見えてはいたが、いしれぬ現実社会への不安におそれおののく心が色濃く支配的となっていた。

一方には高踏的な「白樺」派に代表される活動があり、又、他方、退廃的な、いわゆるエロ・グロ・ナンセンスがありながら、ともに共存していた。

この様な時代に、大正デモクラシーの思潮に啓発されて封建性を脱しつつあった市民



生活を基盤として、甘くやるせない独特の美の世界を築きあげて一世を風靡したのが、竹久夢二であった。

夢二の芸術については、従来、様々な位置付けが試みられ、論考がなされて来ているが、その評価は、いわゆる正統な美術史の枠外に置かれて来た。夢二芸術が、近代美術史の観点から再評価され出したのは、近年のことである。

今日、夢二の生きた時代から、はるかに隔たった時代に生きる若い人達の間に、夢二に共感を寄せる者が増えてきている。夢二芸術には、まだまだ解明されなければならない問題が多いようだ。従って、本展開催にあたっては、サンケイ新聞社及び夢二会の関係者の多大の御協力をいただき、夢二の様々な分野にわたる業績を出来るだけ多く一堂に集め展示することを目指した。



夏屋の壺

夢二の生いたち

竹久夢二は、明治十七年(一八四四)九月十六日に、岡山県邑久郡本庄村(現在の邑久町佐井田)で、父菊蔵、母也須能の次男として生まれた。本名は竹久茂次郎。その前年に兄が幼死しているのので、事実上の長男であった。

数え年十二歳の時、本庄村明德小学校から邑久高等小学校に進み、ここで鉛筆画の教師服部李三郎の指導を受ける。後年、夢二が「私の最初の先生で、また最後の先生であった」と書き、「草画」一巻を捧げた恩師である。

明治三十二年春、高等小学校を卒業した夢二は、四月に神戸中学校(現在の神戸高校)に入学している。しかし、在学わずか八ヶ月で郷里岡山へ帰る。退学の事由は家事の都合となっており、翌明治三十三年の二月には竹久一家は、

福岡県遠賀郡八幡村へ移住している。この間の事情は必ずしも明らかではないが、経済的な理由等もあったようである。夢二は八幡での新しい生活になじめず、東京へ出て画家になりたいという思いをつのらせていた。

明治三十四年夏、夢二はこのことを母と姉にだけうち明けて、東京の近藤弥八家を頼って、父には無断で上京した。早稲田に近い下戸塚の近藤家に下宿した夢二は、あくまでも画家志望を認めない父に妥協して、明治三十五年九月早稲田実業学校に籍を置いた。夢二は当時でいう苦学生としてほとんどアルバイトで自活し、新聞配達、牛乳配達から人力車の車夫までやったという。この頃、夢二の生涯に深い関わりをもったキリスト教、社会主義思想、又野球に関心をもつこととなる。一方、白

馬会の洋画研究所に通うなど、しきりに画作を続けていた。明治三十八年、早稲田実業本科三年を卒業した夢二は、そのまま専攻科に進んだ。

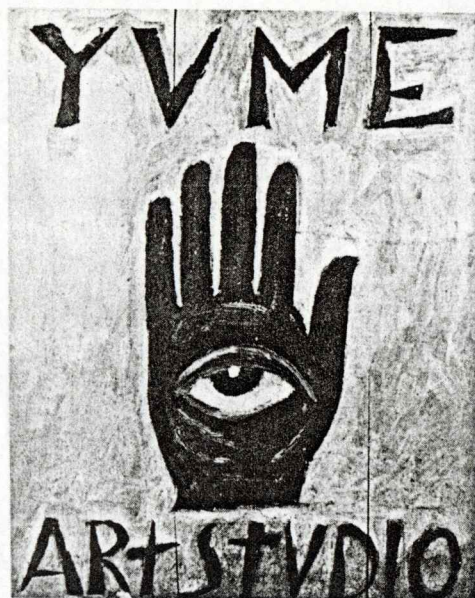
画業の出発

当時の新聞や多くの雑誌の投書欄は、文学や芸術に志す青年の登龍門の役割りを果たしていた。夢二は専攻科に進んだ直後から、投稿を開始している。まず六月四日付け『読売新聞』の「日曜付録」に投稿した「可愛いお友達」が初めて活字となった。ペンネームは竹久澄子であった。六月二十日発行の『中学世界』夏季増

刊「青年傑作集」のコマ絵「筒井筒」は第一賞となり、この受賞に自信を得て七月、専攻科を中退した。この時の投稿に初めて「夢二」のサインが用いられている。

この活動の舞台は後急速にひろがり、まもなく雑誌や新聞の画壇に関する限りは、一人前の新進画家として認められるようになった。

明治四十年、夢二は岸たまきと結婚する。たまきは、前年早稲田鶴巻町に開店した絵ハガキ店「つるや」の女主人であった。大きい目をした美人と言われたたまきによって、



YVME看板

夢二の作品は独特の美人画スタイルを生み出し、このいわゆる夢二式美人はやがて一世を風靡していく。

しかし、現実の妻たまきは夢二の描いた女性のイメージとはやや異なり、むしろ強い性格の持主であったという。

二人はしばしば衝突を繰り返す、はやくも明治四十二年五月に協議離婚をするにいたった。しかしながら二人は、その後何年間に渡って同居と別居を繰り返すことになる。

画業の展開

この年十二月、夢二の最初の画集『夢二画集 春の巻』が刊行され、爆発的な人気を呼んだ。扉裏には「この集を別れたる眼の人におくる」と、たまきへの献辞がある。この画集は、『中学世界』に投稿入選以来、各誌に掲載された多くのコマ絵の版木を集めて編集刊行したものである。

夢二画集はこの後続々と刊行され、『夢二画集 夏の巻』(明治四十三年四月)、『夢二画集 旅の巻』(明治四十三年七月)、『夢二画集 野に山に』(明治四十四年二月)など、大正初めまでに約二十冊を数えた。この間には、『月刊夢二エハガキ』の刊行も開始され

た。

た。

大正元年秋、第一回夢二作品展覧会が、京都岡崎公園内の京都府立図書館で開催された。この個展に展示されたのは、油絵、水彩画、グアッシュ、ペン画、そして水墨画を含む日本画の総点数百三十七点であった。つまり、初めて公開された夢二の肉筆画であった。

この時、同じ公園内にある京都勧業館では、まったく同じ会期で文展が開かれていたが、その文展に劣らぬ人気で入場者を集めたという。投書のコマ絵以来、多くの夢二画集によって人気の高めていた夢二であってみれば、その肉筆画の初めての公開に寄せる人びとの期待や関心のたかまりは当然のことであつたらう。

港屋の開店

大正三年十月、夢二は日本橋呉服町に「港屋」を開店した。この店は今日でいえばいわゆる趣味の店であつて、木版画や石版画、カード、絵本、詩集などから、絵日傘、人形、千代紙、絵入り封筒、祝儀袋、更に風呂敷、半襟、帯、浴衣にいたるまで揃えられていた。すべて夢二のデザインによるものであった。店は開店と同

時に大へんな繁盛で、特に若い女性の人気は大変なものだったという。当時の女性にとって、港屋の品を身に着け、夢二の封筒と巻紙で便りを出すのはこのうえないおしゃれだったのである。この港屋で夢二は笠井彦乃と運命的な出会いを持つ。

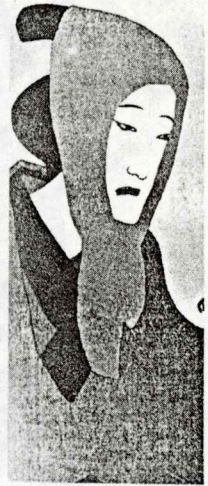
大正五年四月にはロシアの盲目詩人エロシエンコ、秋田雨雀とつれだつて水戸へ講演旅行をしている。夢二はその生涯の多くを旅に費している。旅に夢を求め続けた放浪の詩人画家夢二の姿がそこにある。この月からセノオ楽譜の表紙装幀を始めており、以後、昭和の初めまでに数百種を数える画期的なシリーズとなった。

京都時代

大正五年十一月、夢二は京都の旧友堀内清方へ身を寄せ、以後、足かけ三年にわたる京都時代が始まる。

大正七年四月、京都府立図書館で第二回目の個展「竹久夢二抒情画展覧会」が開かれている。九月には、多忠亮作曲による「宵待草」がセノオ楽譜から出版され、たちまち日本全国に流行した。

関東大震災



治兵衛

大震災はいろんな意味で大きな社会的変動をもたらした。そして、夢二の人氣もこの震災を境に下降線をたどることになった。

この震災のため恩地孝四郎らとともに企画した「どんたく凶案社」は、本所の印刷所が全滅し、実現寸前の段階で挫折した。夢二は連日焼跡を歩き廻り、多くの震災スケッチを残している。そこには、一夜にして無惨に変わり果てた東京の姿が、生々しく記録されている。

旅路の終り

昭和五年五月、夢二は「榛名山美術研究所建設につき」という宣言文を発表し、「手による産業」の育成を目指した。しかし、一年後に夢二はアメリカ、ヨーロッパへの外遊のため、この企画もおあずけとなる。これは、「港屋」以来、大震災によって計画だけに終った「どんたく凶案社」や、印刷所と提携して藤島武二や岡

田三郎助を顧問にむかえた月刊『凶案と印刷』の発刊企画に続く、これは夢二の創作活動の一つの帰結点であったとも見られよう。

昭和六年五月、夢二は長年の夢であったアメリカ、ヨーロッパへの旅に出る。昭和八年九月に帰国するまで、足かけ三年におよぶ旅であったが、不況下のアメリカ、ナチス・ドイツの軍靴の音響くヨーロッパの旅行は、決して楽しい旅ではなかったようだ。そして夢二はやつれ果て、身体を引きずるように帰国する。

昭和九年一月十九日、信州富士見の高原療養所へ入院。同年九月一日の明け方、夢二は「ありがとう」のひとことを残して、満五十歳に半月少ない生涯を静かに閉じた。

会期・入場料

●会期

9月13日(土)～10月15日(木)
開館時間は、午前9時～午後4時30分
休館日 月曜(ただし9月15日は開館し、翌日休館)
入場料
大人三〇〇円(二〇〇円)
大・高生二〇〇円(一〇〇円)
中・小生一〇〇円(五〇円)
(一)内は二〇名以上の団体料金

美術講演会

特別展に伴い美術講演会を次のとおり開催します。

演題 夢二の魅力
講師 細野正信氏(東京国立博物館主任研究官)
日時 9月15日(月・祝)午後2時より
会場 千葉県立美術館

美術を語る会

展覧会について、「語り合いたい」の中から、作家や作品についての知識や理解を深めるために開催します。

話題 「夢二の世界を語る」
話題提供者 夢二会
日時 9月27日(土) 午後2時より 無料
会場 千葉県立美術館

一人でも多くの方々に美術鑑賞を

第四回千葉県移動美術館



浜口陽三 ざくろ・ピ

ーマンのある静物・

星裏一 雪の玉A・赤

い地平線・王の樹

深沢幸雄 旗・人・影

(メヒコ)A

池田満寿夫 Something

一・ハートの位置・

マーガレットの庭

香取秀真 靈獸文大花瓶・鳳

鳳文様花瓶・筋入花瓶・菊

文釜・笑獅子香炉・鳩香炉

津田信夫 一點玲瓏・鴨・鳳

翔薫炉・子迷家鴨・鷺・北

辺夜猫子

信田洋 伸びく湾・九曜盤・

蠟銀ひき古瓶

富取風堂 群魚

渡辺孝 川口

松尾敏男 原野

浅見錦龍 古泉千槿の歌

とおりである。

浅井忠 婦人像・農婦

黒田重太郎 女と小犬

椿貞雄 八重子像

石橋武治 筑波遠望・水辺

◆お問い合わせ先

東金市中央公民館(☎〇四七

五五・四・〇一一)

県立大利根博物館(☎〇四七

八五・六・〇一一)

トピックス

● 第四回夏季大学終 わる

例年になく冷夏の中、去る八月一日・二日の二日間、約一〇名の受講者が参加して、夏季大学が開催された。

今回は、「日本洋画史の流れ」を、明治・大正期に活躍した洋画家たちに焦点をあてて講義が行われた。

受講者の中には、第一回より参加している方々も多く、前回までの講座を継続したものと、美術史のより深い知識を得ることができたという好評であった。



● 昭和五十五年度第一回美術協議会開く

八月六日、本年度第一回の美術館協議会が、委員の方々も新たに開催された。

友の会「美術探訪の旅」に二参加を

友の会では、今年も一泊二日の県外美術探訪の旅を計画している。

今回は、信濃路の自然美を味わいながら、小山敬三美術館・山本鼎記念館・信濃デッサン館を鑑賞し、信州の鎌倉と呼ばれる別所温泉附近の寺々を訪ねます。

(期日) 十月二十五日(土)

会議では、昭和五十五年度の

の展覧会事業の概要、美術品取得基金条例の設置について報告された後、資料購入方針ならびに県民アトリエの運営について協議が交わされた。

● 版画の理解のために

第二回美術を語る会

企画展「現代版画三人展」の開催中の八月十六日(土)に、第二回美術を語る会が開かれた。

話題提供者には、展覧会出品作家のひとり深沢幸雄氏を迎え「ぼくの版画に与えたメキシコの古代美術について」というテーマのもとで、語り合いがなされた。特に、中南米のマヤ・メキシコ文化についてのスライド映写による興味深い解説や氏の独特な版画技法についての説明は、雨の中を参加した人々から有意義な会であったとの声が高かった。

伝言板

● 県展等の準備並びに整理のため、次の期間が休館日となります。

10月16日(木)～10月24日(金)
11月17日(月)～11月19日(水)

団体展

(9月～12月)

▽千葉80展	9・23～9・28	無料
▽新構造千葉支部展	9・30～10・5	無料
▽千葉県勤労者美術展	9・30～10・5	無料
▽ファンシー展	9・30～10・5	無料
▽第23回千葉市小・中・養護学校児童生徒作品総合展	10・7～10・15	無料
▽第12回高校芸術祭(美術・工芸・書道作品展)	11・20～11・30	無料
▽第3回千葉県写真展	11・20～11・30	無料
▽第30回千葉デザイン展	12・2～12・7	無料
▽千葉県大学連盟美術展	12・2～12・7	無料
▽概念と空間展	12・2～12・7	無料
▽第25回子ども県展	12・9～12・21	無料

なお、第32回県展の開催期日は次の通りです。

10月25日(土)～11月16日(日)

県展に対する問い合わせは、本館あるいは県美術会事務局(☎二二二七〇)に。

来館者

日記抄

7月	18	目黒区教育委員会美術館準備室二名
20	28	国立国際美術館一名
30		新潟市教育委員会本間教育長他一名
		北海道教育庁岩原社会教育部長
7月	2	研究協力校（千葉市立新宿小学校）展覧会見学
25		「現代版画三人展」オープン
8月	1	博物館実習始まる（8名、31日）
	2	美術館夏季大学開催
4		友の会理事会
6		昭和五十五年度第一回美術館協議会
7	8	デッサン入門講座（Ⅰ期）開講
10		書芸入門講座開講
16		美術を語る会（話題提供者 深沢幸雄氏）

県民アトリエあんない

十月からの実技講座

内容と日程決まる

○洋画基礎講座

前期は水彩画を中心とした講座でしたが、今回は油彩画を中心とした講座です。

期日 10月25日(土)26日(日)

11月22日(土)23日(日)

12月13日(土)14日(日)

1月24日(土)25日(日)

2月14日(土)15日(日)

時間 午前10時～午後4時

講師 太田洋三氏(千葉大

学教授)

募集人員 30名

会費 無料(ただし、モデル代等負担)

締切 10月11日(土)

○洋画研修講座

基礎講座よりも技術面に重点を置いて、技能の向上を目的とする講座です。

期日 10月28日(火)29日(水)

11月11日(火)12日(水)

1月27日(火)28日(水)

2月24日(火)25日(水)

時間 午前10時～午後4時

講師 海老沢厳夫氏(千葉大学教授)

募集人員 30名

会費 無料(ただし、モデル代等四千五百円程度自己負担)

締切 10月13日(月)

○彫塑制作講座

今回も前回同様初心者を対象に頭像を学習し、石膏取りまで行う。

期日 10月1日(水)2日(木)

10月9日(金)10日(金)

10月17日(金)18日(土)

19日(日)

時間 午前10時～午後4時

講師 青木三四郎氏

募集人員 20名

会費 無料(ただし、モデル・助手・石膏代等七千五百円程度自己負担)

締切 9月16日(火)(前号で9月6日(月)となっておりましたが、16日に変更させていた

だきます。)

○デッサン入門講座(三期)

一期・二期と同様、石膏デッサンを学習する。

期日 11月8日(土)9日(日)

時間 午前10時～午後4時

講師 篠崎輝夫氏(日展審査員)

募集人員 30名

会費 無料(ただし、材料費は自己負担)

締切 10月25日(土)

○陶芸入門講座

陶芸の基礎的な技術を身にける講座です。

期日 10月31日(金)

11月1日(土)2日(日)

11月29日(土)

12月2日(火)

時間 午前10時～午後4時

講師 山本正年氏(日展評議員・光風会理事)

募集人員 30名

会費 無料(ただし、材料費は自己負担)

締切 10月17日(金)

○七宝焼入門講座

身近な装飾品の制作を通して七宝焼の基礎的な技術を身につける講座です。

期日

一期 12月6日(土)7日(日)

二期 2月27日(金)28日(土)

講師 長南光男氏(千葉大学教授)

募集人員 各30名

会費 無料(ただし、材料費は自己負担)

締切 一期 11月22日(土)

二期 2月13日(金)

※その他、「てん刻入門講座」(二期)もありますが、次号でお知らせいたします。

※各講座への申し込み方法往復はがきで

①希望する講座名

②住所・氏名・年令

③電話番号

をご記入の上、千葉県立美術館内研修班宛お送り下さい。

※期日については、一部変更する場合もあります。

情報資料室

県民アトリエは、四月一日より各種実技講座・講演会などで活動を開始しておりますが、準備が遅れておりました情報資料室は、いよいよ九月九日(火)より御利用いただけることになりました。

情報資料室には、現代日本美術全集・世界巨匠シリーズなどの全集類を中心とした図書約一〇〇〇冊、みづゑ・芸術新潮などの雑誌ハタイトル、その他、各地展覧会図録・県内外の美術館・博物館の刊行物などの資料を備えてあります。

しかし、すべての資料の整理を完了するには、もう少しばかり時間が必要です。御利用いただく資料や開設時間に、当分の間、制限を加えさせていただきますこととなります。御了承ください。

まだ、十分ではありませんが、どうぞふるって御利用ください。

開設時間は次のとおりです。

・開設日 開館中の火曜日から金曜日まで

・開設時間 開設日の午後12時30分から4時30分まで